

” つれづれなるままに ”

升 島 努

つれづれなるままに、ひぐらし机に向かいて、そこはかたなく書類作る事多けれ、さみし。 一体今日は何をしたのか、と言う事の多い毎日である。そう言えば、故吉田先生も、同じ事を、良く言っておられたのを、思い出す。

<<教室の事>>

現在18名(4S+2(非常勤)、1OD、2D、5M、3UG、1K)なかなかバランスの取れた構成である。皆生き生きと仕事をしていると書きたいが、皆マイペースで、楽しみながら仕事している様に見える。非常勤講師の先生が来られ、なかなかいい雰囲気だと言われるが、それだけぬるま湯だと思い、これではいけないのだがとも思う。しかし主役は彼ら、自覚、いや、目覚めを待つしかない。

ともあれ、我ながら方向づけのよろしきを得て(誰も言ってくれないので)仕事は順調?に展開している。

<細胞・ビデオグループ>

小澤、洲崎の双癖のおかげで、研究は、少しずつだが、進んでいる。我々が、ビデオ分析技術を持ち込んで、細胞の動態を追いかけてしようとしている事が、各方面でだんだん認知されて来たようで、総合研究班への参加も要請された。しかし、そのスピードは、自分から見ると遅々としてノミの歩みに見え、時に個人的ないらつきの原因となる、しかし、それに気づく事もなく、彼らは、ただ黙々とやっている。立派の一言につきる。手法そのものを磨かなくてはと思うが、その点は、あまり進まず、ただこれを利用しての成果のみが進みがちだと、時に双癖に文句を言う。これは、薬学分野で育った人の傾向なのだろうと、つい思うが、彼らはいや今に見ておれと、内心悔しい思いをこらえているに違いない。

これが、研究室のお金もスペースも人も、大半を占めるテーマである。

この、ビデオ技術を利用して、分離過程の見直しをした昨年の仕事は、それ以後あまり進んでおらず、解析を田村(敦)君が進めている。

X線光音響法は、今や不動の地位を占め、steadyの域に入った。これが科技厅大型シンクロトン放射光Spring-8計画(卒業生塩飽秀啓君(原子力研究所)も担当)とも関係して、意外な所で、大きな顔をしてのさばっている。今回、フランス領グアドループ島(ドミニカの近

く)である国際会議では、光-熱分光研究でのシンクロトロン放射光の利用と可能性を考えるパネル討論を企画し、その座長をつとめることになったのも、このプロジェクトが背景にあるからである。

教室のテーマはこれだけかと言えば、どっこい、そんなレベルで満足する我(々?)ではなく、今年から立ち上げた隠し玉が4テーマある。どれも山つけたっぷりのテーマであるが、卒業生諸君には、来年のお楽しみとして置きたい。どうしても知りたいと思われる向きは、教室の人の自己紹介を良く読まれるか、どうぞ教室において下さい。その内の一つは、すでに世界で初めての試み?に成功して(留学生ラジー君)薬学会で発表する。鼻息だけは、時にすごいものがある。

「確立するもの、将来に向かって立ち上げるもの、これらは教室の研究の車の両輪として、いつも持っていただく思います。」

<<人の和>>

和をもって尊しとなす気は、さらさら無く、むしろあっさり言い合っ、後腐れない方が良いと思っています。それにしても、教室は、特にいやな思いをする事もなく(私だけか?)また、そういういい人に本当に恵まれている。

今年入ってくれた、むくつけき3人のみの4年生男子、皆心やさしい好青年である。その内、2人は、ピオラとクラリネットの名手、M1の2人の美しきバイオリニストと、後で述べる私の後輩筋のフルーティスト(一見とともそうは思えないが)合わせて、ブンセキ?・アンサンブルを結成してくれるとか。もう一人の4年生は、夜とパチンコの帝王、スルカスラれるかの境界を単位取得と合わせてさまよっている強者である。この子が先ほど細胞マイクロインジェクション用のキャピラリーが引ける機械を作り上げ、いいキャピラリーが実際出来ましたととてもうれしそうにしてくれた。一生懸命、しかも、きちんと作れば、報われる事を、知ってくれて良かったと思う。その気持ちを大切にしていきたい。

他の大学・学部からも血を入れた。女子大からの初の院生、有機を全く習っていないハンディーをはねのけ、立派な成績で入ってくれた。いい目で、研究を進めているし、今年も後輩が続いた(杉山研へ)。理学部からは、自分の出身研究室から一人博士課程の男の子をもらった。本当は職員として貰う約束であったが、反故にして、他の人の処遇に代え、出す側の恩師から、約束が違うと怒られた。しかし快く、本人はこの申し出に応じてくれた。皆の装置開発には、無くてはならない存在になっており、その存在感は、物理的にも精神的にも大きい。

M1は、こうして、4人の女学生となり、不景気の真ただ中、就職活動に奮戦している。まだ紹介しなかった、我が教室の人材面での隠し玉もその一人であるが、私は、彼女の就職には全く心配していない（本当は就職して欲しくは、なかったが）。人事は、人を観る力があるからである。バイオリンの名手2人は、コンピューターにともに強く、新しい分野を切り開いている。皆、ひたむきで、頑張りやで、誠実な乙女達である。

M2小林君、孤群奮闘、ようやく偏光解消ビデオ顕微鏡を完成させ、少し仕事にも自信がもてるようになったようだ。残りわずかで、仕事を仕上げるつらさと喜びを知ってもらいたく思います。

晴れてOD (Over Doctor) となった、悦ちゃん、ご苦労さま、そしておめでとう。実質、薬学で初めての2.5年短縮での学位取得は、歴史に残る快挙です。来年からのオーストラリア留学も、豪州政府留学奨学生の特典・難関も突破、これでまた一つ彼女の勲章が増えました。豪州でも豪傑で居続けて帰って来て下さい。

エマラは、無事研究を終え、エジプトに帰りました。もうすでに、かの地では、色々な共同研究が彼に申し込まれ、カイロにそして大学のあるアシュートにと飛び回る忙しい日々を送っているようです。驚くべきHPLCの名手として、皆に期待されているとの事。きっと「OK、OK、大丈夫、大丈夫」をアラビヤ語で連発している事でしょう。

イランから来た、ラジー君、奥さんのハデミさん、ともに研究にまじめに取り組んでいます。センスの良さと、正確さは、研究者らしい素養で、安心して見ていられ、まもなくラジー君の方が、まず大発表すること、皆さん期待して下さい。

職員の事も少し、今、夫婦で研究活動を始めた田村夫妻、一生懸命やっています。新しい環境、新しいプレッシャーの中、自分の汗と力だけをたよりに頑張ったく思います。崖っぷちに立っているつもりで。

池田は、杉山先生から遺伝子工学を習って、これでもまもなく学位を取ります。このテーマを入れると、うちにはまだまだ広い底がある事に気づきます。一つの事を成し遂げる満足感の素晴らしさを知り、これからの研究への大きな原動力にして欲しく思います。もう自信を持って何事にも取り組んで下さい。

小澤は、双壁の所で触れました。少し身体をこわした様ですが、今が自分を確立する大切な時、生易しい気持ちで研究を進めて欲しくはありません。頑張ったく欲しい人材です。

それから、ガラス細工と教室の装置製作に協力してもらっている、石田さん、今年は、何も恩返しが出来ませんでした。すみません。

こうして、皆が立派にやっているのを見て、なんだか一人取り残された様になる自分です。教授室には、坂本さんが広島に帰ってきて、私の秘書役をやってくれています。毎日勝手な事を頼むのですが、大切に私をたてて、雑事を処理してくれている事に、本当に感謝しています。しかし、まもなく彼女も、居なくなるかも知れず、取り残され感は、きっとその時、より強く感じる事になるでしょう。

少し、自分の事も、と思います。老化防止の為、新しい趣味を持つ事にしました。フルートです。今1年目が終わろうとしています。まだまだ、いい音色が出ず、指も動きません。でもビゼーの”アルルの女組曲”よりのメヌエットの部分、良くフルートで聞かれるあの曲を、今年の仕上げの目標に頑張っています。早く、わがアンサンブルに仲間入りしたいものです。

しかし、趣味は趣味、研究がやはり生き甲斐です。今したたかに、自分のsuperテーマを考えています。アイデアだけに、来年こそは、終わらない様に、したいものです。ようやく、教室も、手が、いや目が離せそうですから。

人すべて良ければ、おのれもよしとす

とても、そんな事出来ないのですが、そうある様に、これからも、つとめなくてはならないでしょう。

そんな役廻りなのでしょう、きっと・・・。

平成5年 11月 5日

